10月号　　楷書臨書課題（漢字半紙部）　對馬聖峰臨

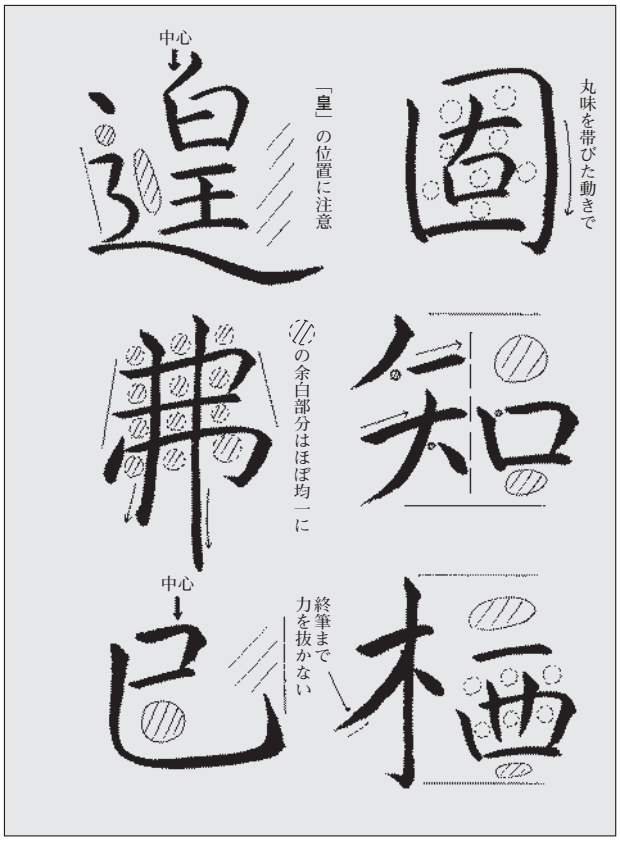
※出品段級位（漢字半紙部 新級～八段）

※弘前の部分には支部名を書く

使用筆（花林）・使用紙（無罫半紙・桐）・使用墨（黒耀）

楷書臨書課題解説

孔子廟堂碑（虞世南）



原帖

〔固知栖遑弗已〕固より栖遑已まざるも、

〔固〕 1・2画目の始筆は接しない。2画目縦の部分は1画目に対応させながら丸味を帯びた動きで、中の空間のとり方に留意する。

〔知〕 偏は縦長につくり、右側は縦に一線に揃える。口は位置に注意し、上下に余白をつくる。偏・旁とも接筆に僅かな余白を残す。

〔栖〕 偏は縦長に、逆に旁は上下を広く空けて、横広にまとめる。3画目の左払いは終筆まで力を抜かない。

〔遑〕 辶の大きさを考慮して皇を書く。皇の右側に広い空間が残るように、最終画を長く払う。

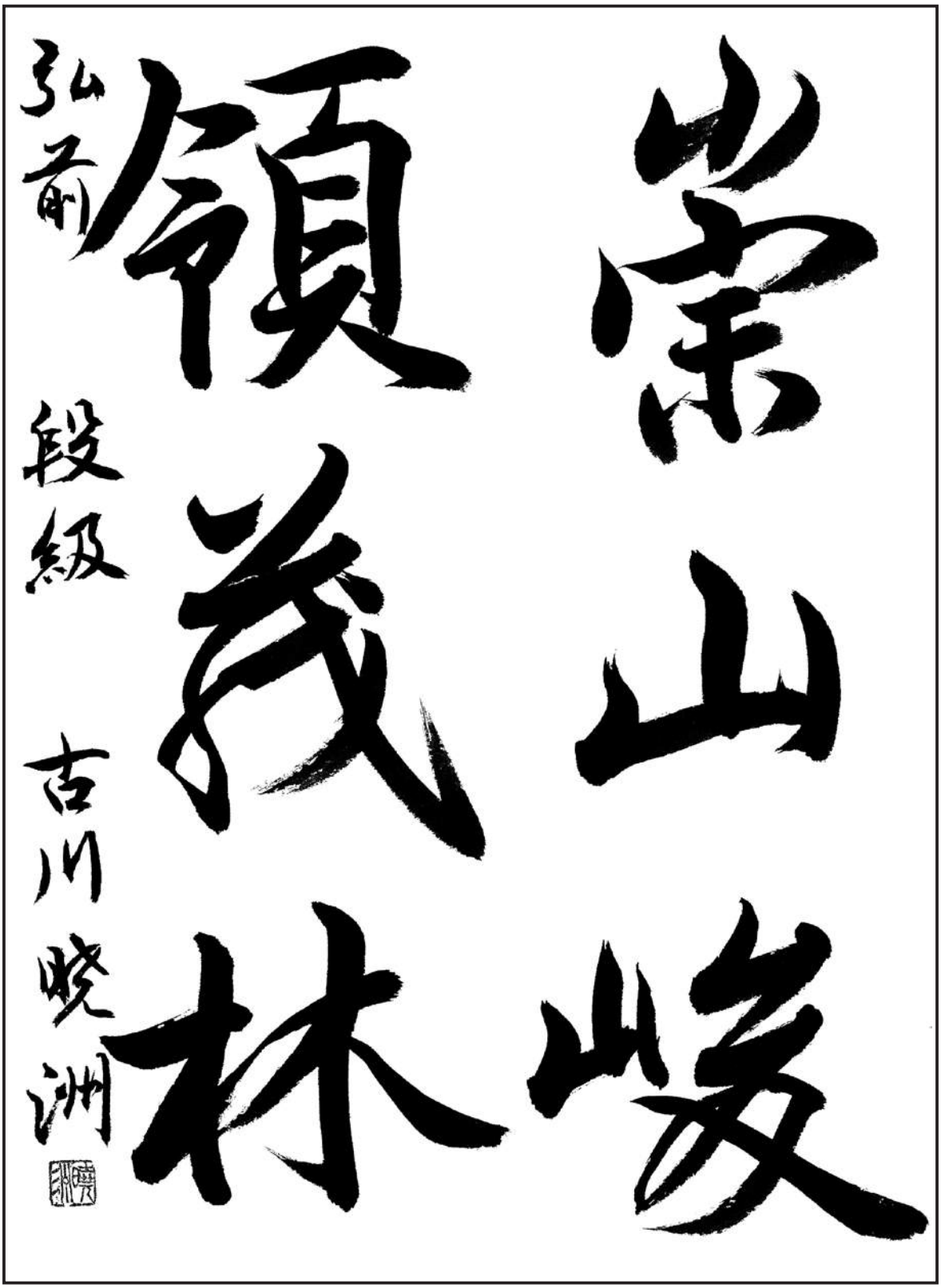
〔弗〕 縦・横の間隔・方向に気を配り、余白をほぼ均一にとるように工夫する。縦画は右側を長く、下部でやや広がりをもたせる。

〔已〕 1画目は中心を考えながら、左に寄せる。最終画は曲げてから横へ長く、終筆はま上にはねる。

10月号　　行書臨書課題（漢字半紙部）　古川暁洲臨

※出品段級位（漢字半紙部 新級～八段）

※弘前の部分には支部名を書く



使用筆（花林）・使用紙（無罫半紙・松）・使用墨（黒耀）

行書臨書課題解説

蘭亭叙（王羲之）

原帖

〔崇山峻領茂林〕崇山峻領（すうざんしゅんれい）、茂林（もりん）（脩竹有り（しゅうちくあり）。）

〔崇〕 山は小さく、亠を横広に書き、1画目の点は横画をつき通す。下部2つの点はリズミカルに。

〔山〕 全体小さめにまとめる。縦画の方向がそれぞれ違うことに注意。左右の余白は左側を広く、右側を狭くする。

〔峻〕 山は上部に置き、小さく書くことがポイント。旁は下部へいくにしたがって幅が広くなり、動きも大きくなる。

〔領〕 1画目左はらいを長く、その方向に注意する。偏の最終画は短い縦画となる。旁は横画の方向を変化させ、ハでバランスをとる。

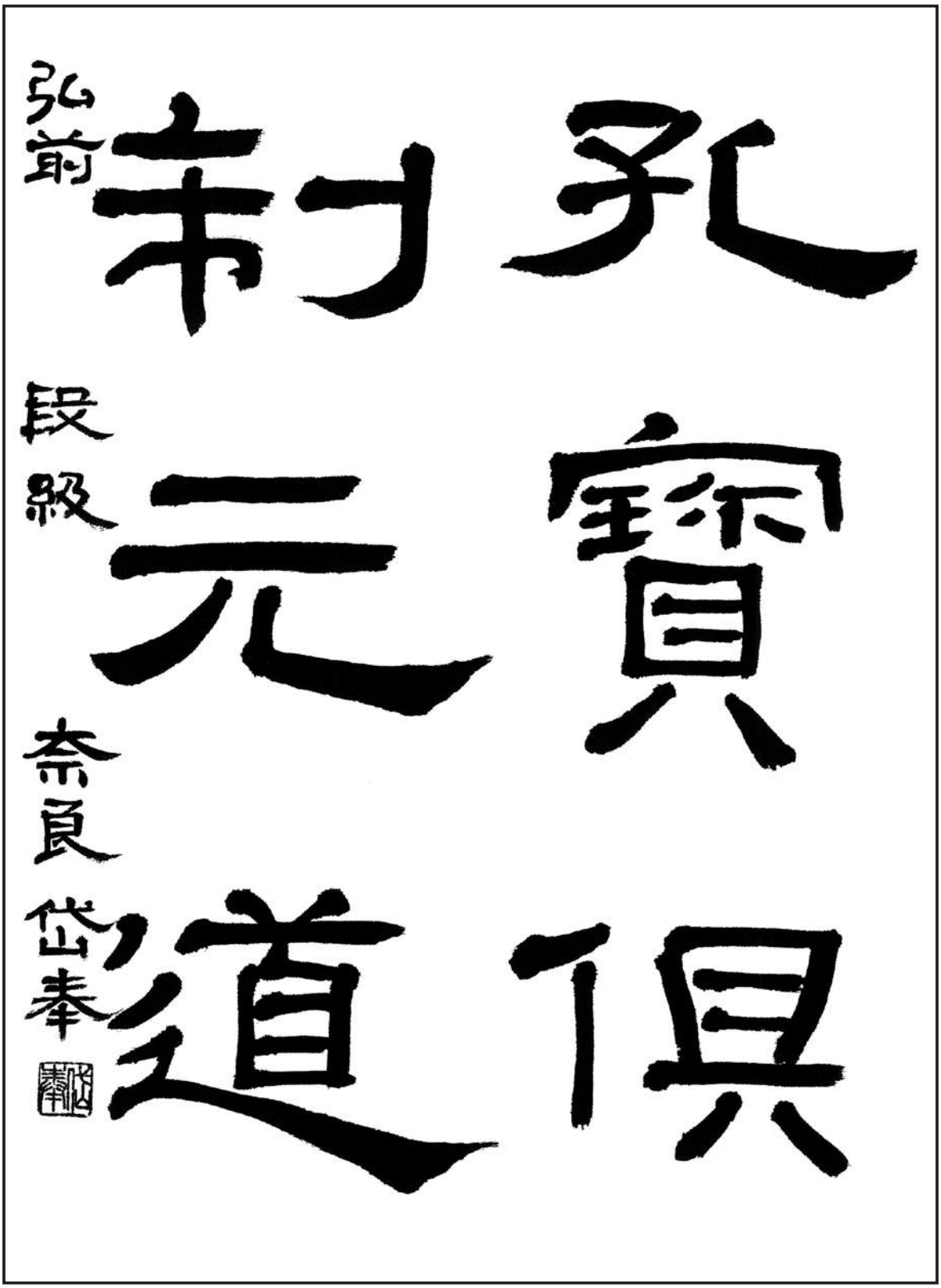
〔茂〕 上部の動きを軽快に。下部は筆の動きをよく見て、太細の変化もつけるように。中の空間を広くあけると安定する。

〔林〕 偏を太く、旁を細く書く。1画目は太目にどっしりと。偏から旁への動きをスムーズにする。

10月号　　隷書臨書課題（漢字半紙部）　　奈良岱奉臨

※出品段級位（漢字半紙部 新級～八段）

※弘前の部分には支部名を書く



使用筆（旭水）・使用紙（無罫半紙・桐）・使用墨（黒耀）

隷書臨書課題解説

礼器碑（れいきひ）

原帖

〔孔寶俱制元道〕孔寶（こうほう）を（育し）、俱（とも）に元道（げんどう）を制（せい）し

〔孔〕 中心に気を配り、偏の上部を引きしめ、下部ははらいをゆったりと。旁の下部は太目に力強く。

〔寶〕 1画目の点の位置に注意。宀は横広に書き字幅をとる。王缶は小さく宀に入り込ませる。目はほぼ中央に書き、下部2点の開き具合に気をつける。

〔俱〕 1画目は短く、2画目は長くまっすぐ下に。目は下部を引きしめる。下部は旁を下げる。

〔制〕 偏は横の間隔を等しく、下部は細かい部分をよく見て、偏と旁の間を広くあける。

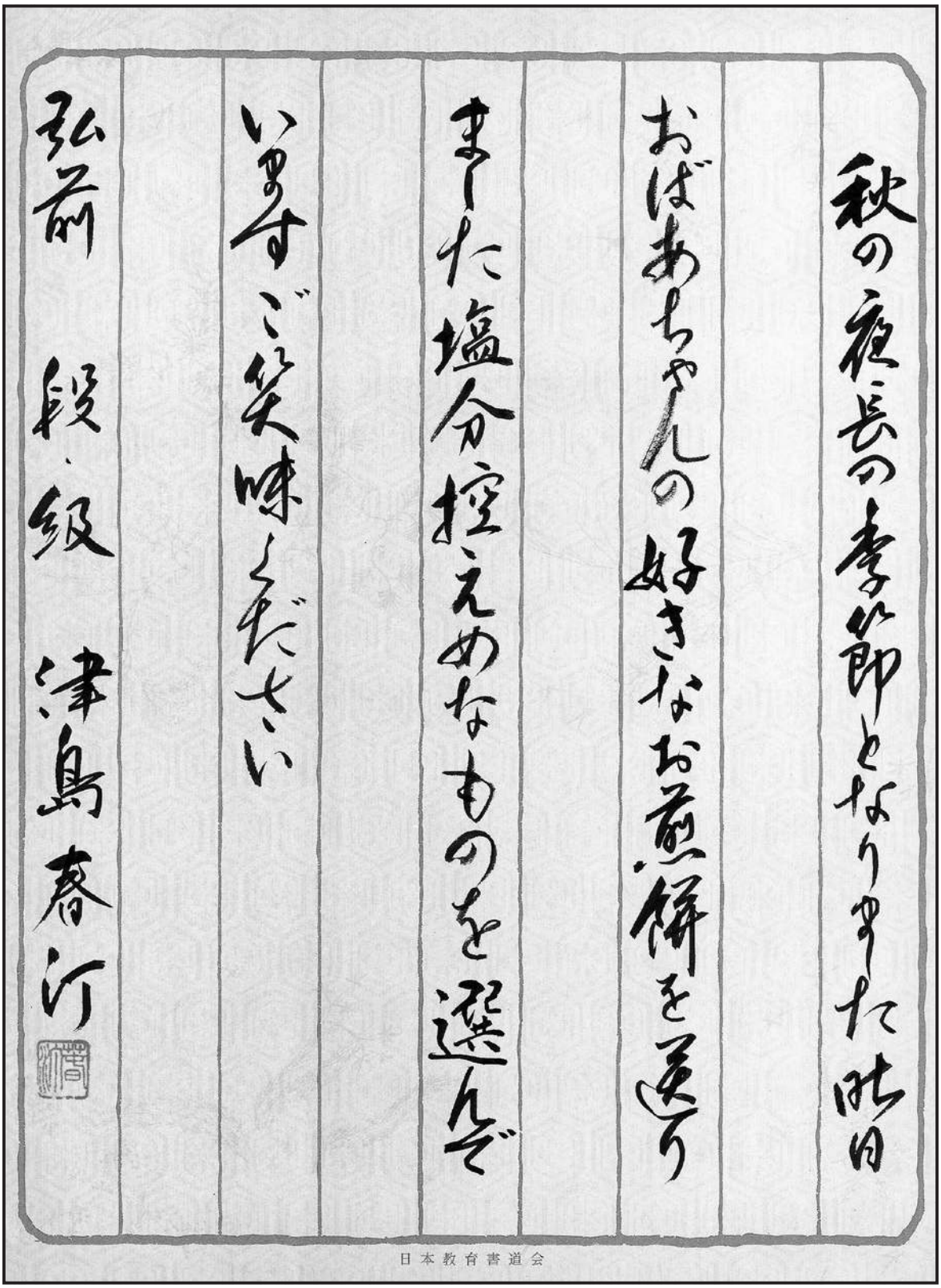
〔元〕 全体に下部で広がる形にまとめる。2・3・4画目の始筆は接しない。4画目は折れてから横に長く、太目に力強くはらう。

〔道〕 3画目横画を長めにし、目は小さめに。辶の各画の方向に注意し、右はらいはしだいに筆圧を加えのびのびとはらう。

10月号　　調和体（漢字かな交じり文）課題　　津島春汀書

※出品段級位（調和体部 新級～八段）

◎19頁に部分解説があります。



読み―秋の夜長の季節となりました昨日　おばあちゃんの好きなお煎餅を送り
また塩分控えめなものを選んで　いますご笑味ください

（◎印墨つぎ）

※弘前の部分には支部名を書く

使用筆（からまつ）・使用紙（調和体用紙）・使用墨（書芸呉竹〈固型〉）

漢字条幅漢詩課題

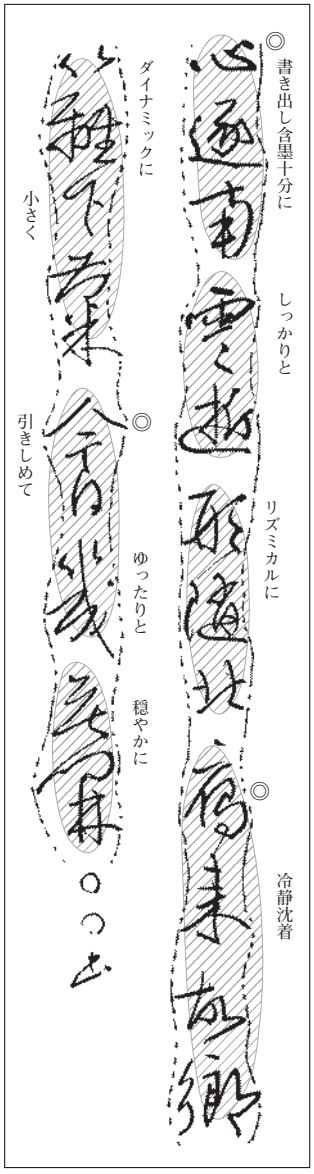
漢字条幅部
※出品段級位（新級～八段）

どんな芸術にも空間に対する感覚は大切な要素です。とりわけ白と黒のみで表現する書にとって、白すなわち空間の大切さは今までの解説でも多く述べられています。書の場合、それは文字造形における白であったりしますが、要するに空間に対する感性が大切な要素でしょう。空間と線質と造形が見るものにとって様々な感じを与え、作品の多様さを見せてくれます。

理屈でわかっていても、どう表現するかは大変難しいことです。結局良い書を見、鑑賞すること以外には無いようです。他に書に関する出版物を出来るだけ見ること、そして「こんな書もあるのか」といった段階から、「こんなものを書いてみたい」と思うようになり、それを研究することの中で自分の表現方法を高めてゆくことが大切かと思います。

『文字群の括り方については、月によって不確定なやり方に疑問を感じておられる方もあろうかと思います。作品では文字の横並びを避けることが肝要で、文字の流れとも係わりがあって、その場に即した表現をとることを心して頂きたいと存じます。』

（『　』内は岡田契雪先生より）



使用筆（白神）・使用紙（漢字条幅用紙半切・梅花箋）・使用墨（頂煙翰墨自在〈固型〉）

岡田契雪先生書

〔◎心逐南雲逝　形隨北雁來　故郷籬下菊　◎今日幾花開〕江総　（◎印は墨つぎ）

読み―心は南雲を逐いて逝き、形は北雁に随いて来る。故郷籬下の菊、今日幾花か開く。

意味―心は南の雲を追っかけてゆき、形も北から飛ぶ雁に従って来た。故郷の垣根の菊は、今日いくつの花が咲いただろう。

半　切（約136×約35センチ）

半切検定課題原寸大手本
500円で販売しております。

注　意

漢字半紙部門と段級位は異なりますので漢字条幅部門の段級位をご記入下さい。なお、初めて出品の人は新とお書き下さい。
支部名・段級位・氏名は鉛筆で左下に記入下さい。

漢字条幅臨書課題

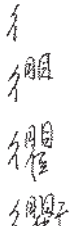
漢字条幅部
※出品段級位（新級～八段）

◆蜀素帖（米芾）

ヒデさんことタレントの中山秀征さんは以前、書道をやっていたとの事。子供たちには学ばせていなかったが、冬休みの課題を見ると字が汚い。大人になって立派なことをやったり言っても「何これ」って思われることがあるし、すごく美人の方の字が綺麗じゃないと「もったいない」って感じる。そんなことを思い出して、せめてある程度整った字が書けるように、子供たちと一緒にまた書道をやろうかな、と話しています。書を学んでる私達にとって芸能界にいる人からテレビなどで、書の大切さをどしどし発信してもらえたら、仲間が増えるかもネーと。淡い期待を抱いています。

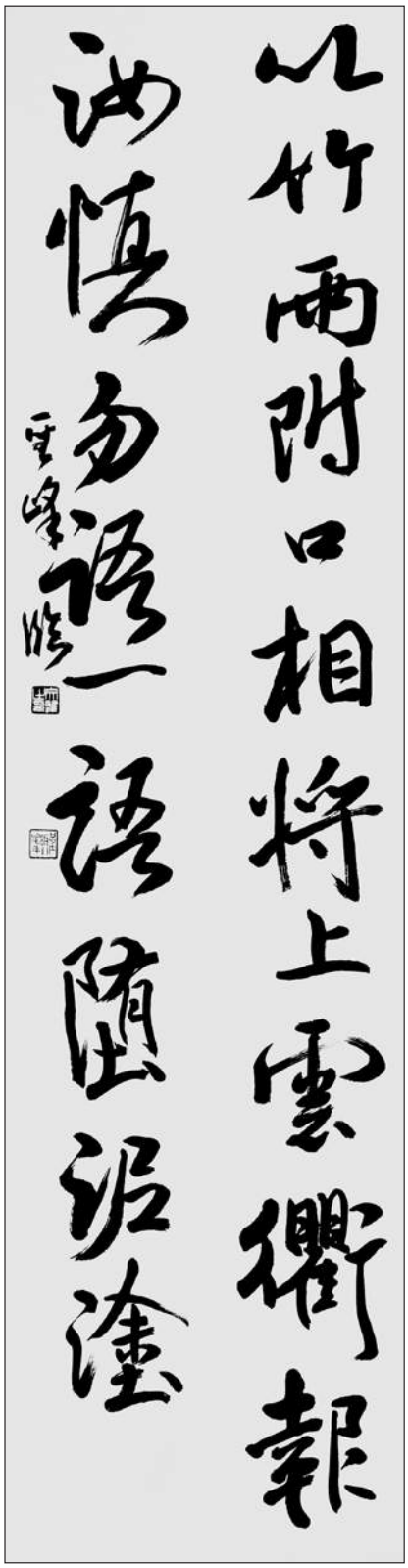
さて今月で五言古詩が終わりました。4月号から1行目に8字か9字を配し、2行目に五言句の残り7字か6字を書き合わせて15字とし、詩の意味が中途で切れないようにしてきました。今回は残りの語句が五言の絶句、すなわち20字あったので全部おさめ、落款を横に入れました。左の原帖と見比べてみて下さい。行のうねりです。私の書いてる参考手本は少々うねりを抑え、半切2行のスタンダードさを保つようにしました。

衢＝



報＝

對馬聖峰臨



〔◎以竹兩附口　相將上雲衢◎　報汝愼勿語　一語墮泥塗〕（◎印は墨つぎ）

使用筆（神技北斗）・使用紙（漢字条幅用紙半切・華心箋）・使用墨（黒耀（固型））

読み―竹を以て両に口に附し、相い将いて雲衢に上る。汝に報ず慎んで語る勿かれ、一たび語れば泥塗に堕ちん。

意味―竹を二羽の口にくわえ、亀を運んで雲の通い路にのぼった。おまえに告げる、慎んで

しゃべることのないように、ちょっとしゃべれば泥の中に落ちるぞと。

半　切（約136×約35センチ）

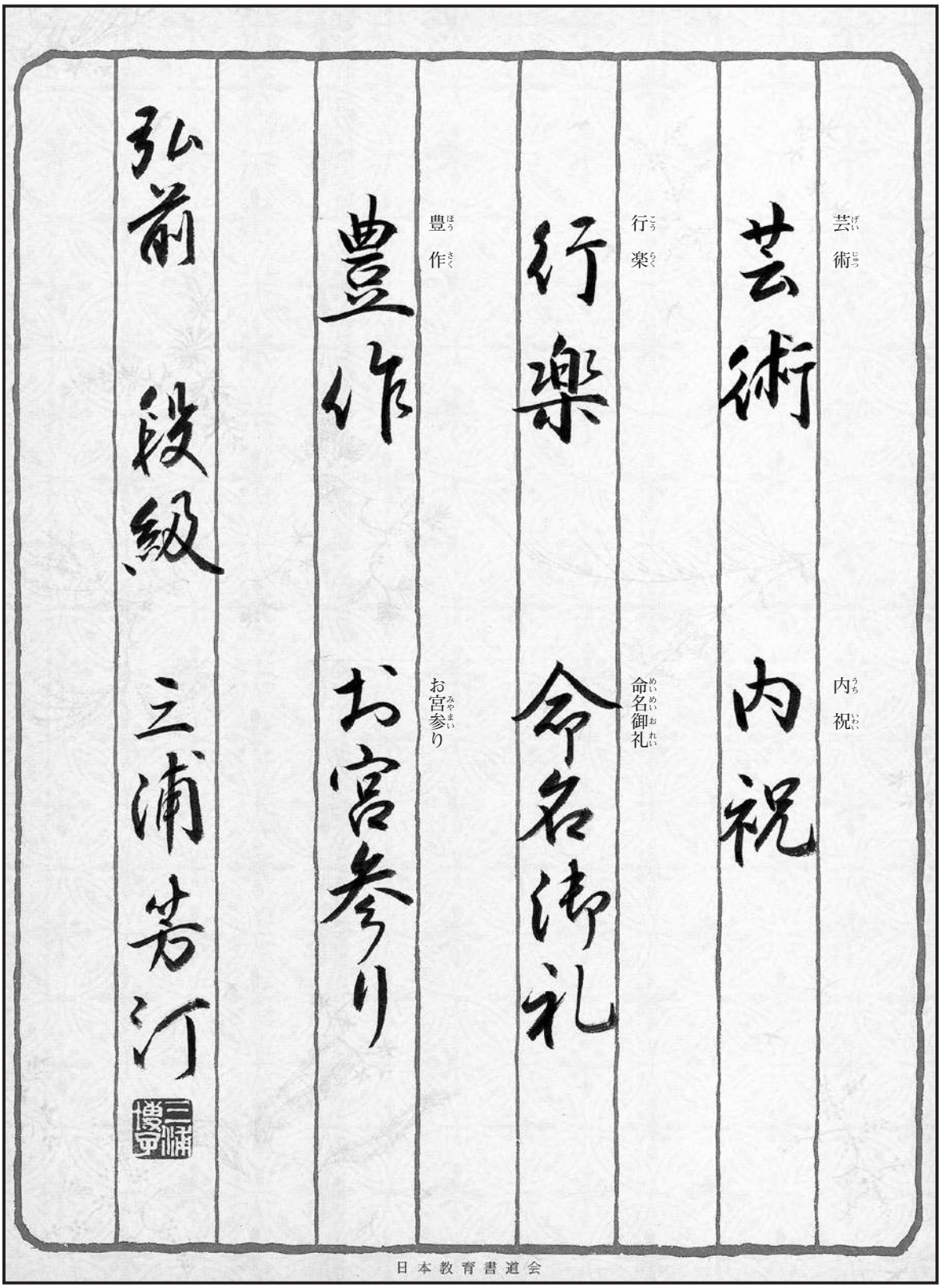
半切検定課題原寸大手本
500円で販売しております。

注　意

漢字半紙部門と段級位は異なりますので漢字条幅部門の段級位をご記入下さい。なお、初めて出品の人は新とお書き下さい。
支部名・段級位・氏名は鉛筆で左下に記入下さい。

10月号　　実用課題　　三浦芳汀書

※出品段級位（実用課題 新級～五段）



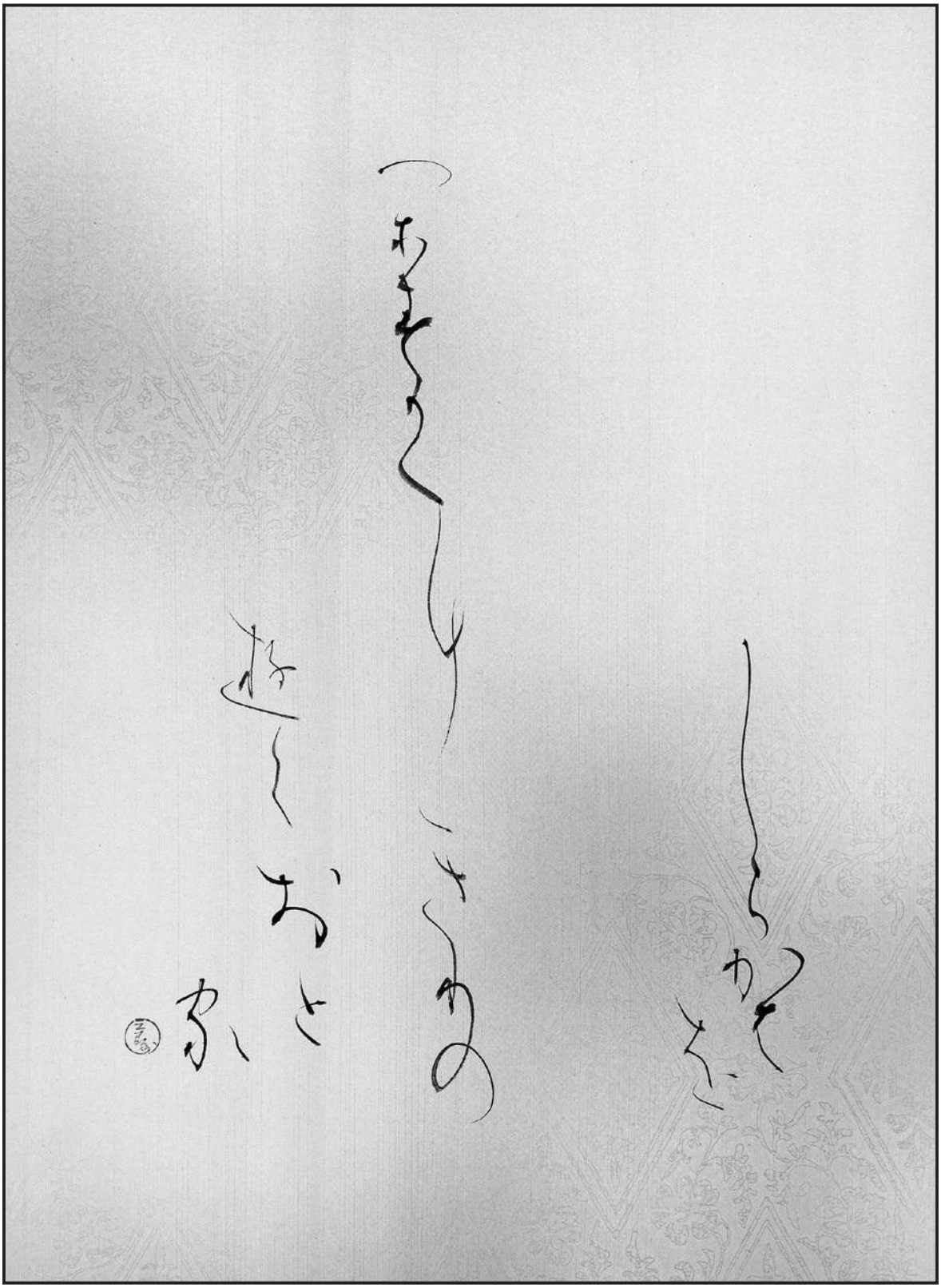
※弘前の部分には支部名を書く

「実用課題」は、段級位認定証を発行しております。（支部長先生は支部長手帳のP21をご覧下さい。）

使用筆（寿無涯）・使用紙（調和体用紙）・使用墨（書芸呉竹〈固型〉）

10月号　かな課題（かな半紙部）　湯川三壽先生書

《俳句課題》　※出品段級位（かな半紙部 新級～八段）



◎しらか者を閑春可耳き利の遊くおと家◎（◎は墨つぎ）

読み―白樺を幽かに霧のゆく音か（水原秋桜子）

意味―白樺を流れる霧は、幻想的である。耳をすますと幽かに霧の流れる音がする。

注意→支部名・段級位・氏名は鉛筆で左下に記入下さい。

使用筆（南風）・使用紙（かな用料紙）・使用墨（天衣無縫〈固型〉）

※19ページ（下段）に解説があります。

かな条幅課題

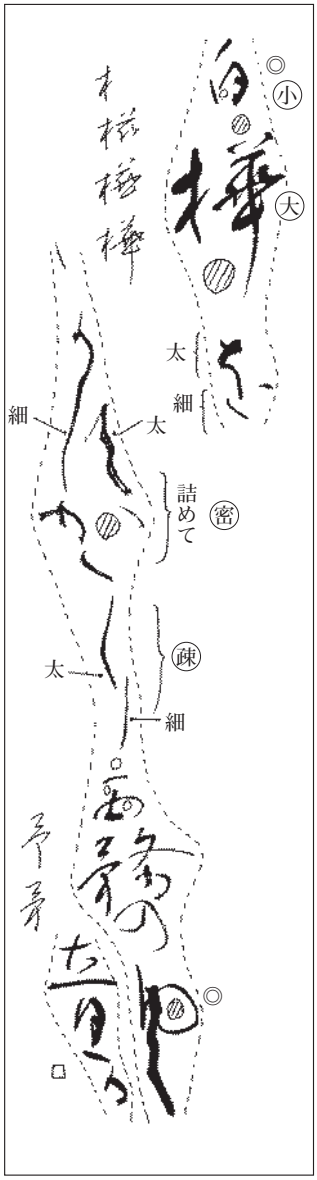
かな条幅部
※出品段級位（新級〜八段）

かなの特徴でもある連綿は続けば続くだけ斜線がうるさく見え、又右から左に引く線の指向性によって行が左に傾斜しているように見えてきます。そこでこれらを解決するために字形の大小・長短・広狭などの組み合わせを考えながら、自然で無理のない連綿の仕方を考えていかねばなりません。

また、中には連綿線は速く書くものと考えている人がいますが、そうではありません。勿論リズミカルに流れる場合もありますが、筆先に圧を加えながら、ゆっくりと書くことをすすめます。

『大字作品では、文字の大小を大胆に表現して行くことが求められます。漢字では画数の少ない字を小さく（白）、画数の多い字を大きく（樺・霧）、仮名には生まれながらの文字の大きさ、外形があります。今月作では、「か・く」を小さく「耳」は大きく書きましょう。』

（『　』内は湯川三壽先生より）



使用筆（雅）・使用紙（かな条幅用紙半切・桂風）・使用墨（天衣無縫〈固型〉）

湯川三壽先生書

半　切（約136×約35センチ）

半切検定課題原寸大手本
500円で販売しております。

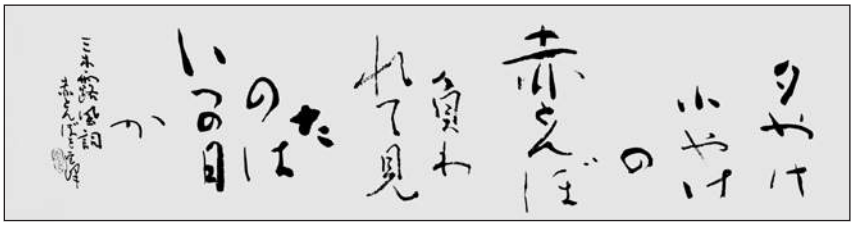
◎〔白樺を可須か耳霧のゆく音可〕◎
読み―白樺を幽かに霧のゆく音か（水原秋桜子）
意味―白樺を流れる霧は、幻想的である。耳をすますと幽かに霧の流れる音がする。

（◎印は墨つぎ）

注　意

かな半紙部門と段級位は異なりますのでかな条幅部門の段級位をご記入下さい。なお、初めて出品の人は新とお書き下さい。
支部名・段級位・氏名は鉛筆で左下に記入下さい。

書作品を書こう



深まる秋を楓やハゼノキに感じるこの季節、思わず童謡が口から出てきます。やはり秋には郷愁という言葉が合うように思います。

最近は、とんぼを見かけることが本当に少なくなりました。昔はオニヤンマも珍しくなかったし、赤とんぼはうるさいほどそこら辺を飛び回っていたのに、今では野辺や山に探しに行かないと見れないのは、自然が少しずつ失われてきてるのでしょう。

しばし懐かしさを書友の皆様と共に過ごしてみたいと考え本作に取組みました。

筆は羊毛の小筆。紙は四半切。

夕やけ小やけの赤とんぼ
負われて見たのはいつの日か

三木露風詞　赤とんぼを

雲中鴈　雲中の雁

寒くなって南に飛んでいく雁を見て、寒気のやって来たのを知る。そのように、真実を体得した人に会わなければ、その境地を悟ることは出来ないこと。「師云、不レ親雲中鴈一、焉知沙塞寒一」（師云う、雲中鴈を親ざれば、焉くんぞ沙塞の寒きを知らん、と）［「趙州録」下］

この語句には**鴈（雁）**がつくので晩秋の頃を詠んだものです。文字からして単純に、雲の中を雁が飛んでゆく、のとは大違いで味わってみると深ーい意味があります。書も同じで観る勉強も大切ですが、それを実際書くことによって、より真実（用筆とか線のタッチ）が見えてくることが多いのではないでしょうか。

筆は旭水。紙は半紙松。作品は※**張瑞図**風。

※**張瑞図**…明代の文人書家。柳葉風の線が特徴。

6月号応募優秀作品

大泉　香華

○一点一画丁寧な書きぶりで研究熱心さを覚える。もっと抑揚をつけて動きを出せば更によい。

出品者

☆小池彩霞
☆山上樹奏
・金澤羅胡
・加賀谷錦泉
・畑中玲潤

（☆は調和体）

応募規定

1. 締切　**11月10日**（10月号例月作品に同送可。その場合、別封筒に入れて「書作品を書こう」と書いて同送のこと。）
2. 発表　28年2月号
3. 規定用紙　**四半切か半紙**
4. 優秀作品1点だけ紙上にて発表（批評コメントつき）その他は姓号のみ発表
5. 段級位に関係なく誰でも出品可
6. 返送不可

※出品は掲載している作品と同じものを書いてもよい。また、当月規定用紙であれば自由作品可。

※出品段級位（ペン部 新級～八段）

10月号　ペン楷書課題（ペン部）　奈良岱奉書

支部名
学年
段級位
初めての人は新と書く
氏名

雑草とは何か
その美点が
まだ発見
されていない
植物である

エマソン

※課題執筆と同じペンを本会で取扱っております 定価162円

（ボールペン0.7・硬筆用紙6行使用）

※出品段級位（ペン部 新級～八段）

10月号　ペン行書課題（ペン部）　奈良岱奉書

支部名
学年
段級位
初めての人は新と書く
氏名

雑草とは何か
その美点が
まだ発見
されていない
植物である

エマソン

※エマソン（1803～1882）…アメリカの詩人・思想家。

※課題執筆と同じペンを本会で取扱っております 定価162円

（ボールペン0.7・硬筆用紙6行使用）

※出品段級位（ペン部 新級～八段）

10月号　ペン手紙課題（ペン部）　奈良岱奉書

秋の夜長の季節となりました　昨日おばあちゃんの好きな煎餅を送りました塩分控えめなものを　選んでいますご笑味ください

秋の夜長の季節となりました
昨日おばあちゃんの好きな煎餅を
送りました塩分控えめなものを
選んでいますご笑味ください

（美文字筆ペン細字・硬筆用紙８行使用）

支部名

段級位

初めての人は新と書く

氏名

※課題執筆と同じペンを本会で取扱っております　定価２７０円